

令和元年度第4回定例会

日 時： 令和元年11月5日（火）午後2時30分から午後4時20分

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、副会長、委員5名

（事務局）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査2名、子ども読書支援係長、地域資料係長、総務係長、担当職員2名

会長 本日は委員7名が出席のため、多摩市図書館協議会規則第4条により令和元年度多摩市図書館協議会第4回定例会を開催する。

事務局より配付資料の確認をお願いする。

事務局、図書館長より配付資料の確認。

会長 議題1、多摩市立図書館本館再整備について、事務局より説明をお願いする。

図書館本館整備担当課長 多摩市立図書館本館再整備について、資料4-1-1基本設計概要書と多摩市政策情報誌vol.9を説明する。

長

企画運営担当主査 資料4-1-1基本設計概要書について説明。

1「コンセプト 知の地域創造に寄与する図書館」、1-1「施設計画」について説明する。「地形に沿った建物配置」とし、多摩中央公園の北西角地に立地する。北側につづら折りの斜路を残すことで風景を継承する。建物の高さを低く抑え、公園景観に配慮して一体性のある建築物とする計画である。「公園とまちをつなぐ図書館」として、公園の大池側とレンガ坂側、多摩中央公園通りの3レベル3方向からアクセスがある。こうした立地を生かし新しい回遊性を創出して、公園内の各施設、パルテノン多摩やグリーンライブセンターとも連携を強化していく。「知のひろば」をつくる、サテライトカウンターやラーニングコモンズと言う新しい市民活動につながる場があり、自動貸出機やICタグなども活用して知のひろばをつくる計画である。「環境配慮について」、ZEB Readyの認証取得を目指す。ZEB ReadyはZero-Energy-Buildingの略。省エネの性能を高め、基準エネルギーの50パーセント削減を達成してZEB Ready建築とする計画。そのための建築的手法や設備的手法を計画しており、具体的には屋根や外壁・ガラスの高断熱化、深い庇、積極的な自然換気や自然採光、また効率の高い空調設備を導入などで省エネ性能を高めていく。屋根の上に太陽光パネルを載せ、太陽光パネルを活かした発電によるエネルギー利用も計画している。「防災について」、災害時の一時帰宅困難者の受入れを想定したスペースと備蓄用倉庫を整備する。具体的には、2階北側が一時帰宅困難者のスペースとなる。建物自体も大地震に強い建築物とする。「バリアフリーについて」、関係法令を遵守し整備する。視覚障

がい者、子ども、車椅子利用者など、誰でも利用しやすい図書館とする。サイン計画にも配慮する。「2敷地・建築概要、配置計画、内部動線計画」について説明する。2-1「敷地・建築概要」、延べ面積が5,495㎡で現本館と同規模、これを上限面積とする。階数は地上2階、地下2階。2-2「配置計画」は、3レベル3方向からアクセスができる計画。2-3「内部動線計画」、利用者動線は1階と2階の中央部分にレンガ坂と中央公園をつなぐ大階段があり、通称ステッププラザと呼ぶ。南と北の両側にも階段を配置し、階段は併せて3箇所館内の回遊性を高める。エレベーターは、地下2階の思いやり駐車場から開架部分の1階2階につなぐよう整備する。職員動線は、職員専用の階段とエレベーターをバックヤードゾーンに配置する。事務室と閉架書庫をサービスデスクと近接した配置とし、業務の効率化を図る。2階の内観イメージ図の説明。中央公園からアクセスができ、開架と多様な市民活動に対応する諸室があり、賑わいを生み出す広場のようなフロアを計画している。壁が全面ガラスになり、どこにいても公園の雰囲気を感じられるような空間になる。3「平面計画」について説明する。2F平面図について。広場のような一般開架を目指している。南側に開架エリアとして暮らしに役立つ一般書、子ども向けの本・雑誌などを隣り合うように配置し、親子の一体利用もできるような計画である。北側が市民活動エリア、市民活動室やラーニングコモンズ、カフェなどを配置する計画。面積は約1,800㎡、収蔵数は約8万冊、席数は約350席を計画。1F平面図について。静寂系開架と呼んでいる。ここは南側に一般書、北側に参考資料、地域資料、障がい者サービスなどを配置する。南と北の両端に静寂読書室を配置し、落ち着いた環境で調べものや読書もできるフロア。真ん中にステッププラザがあり、面積は約1,850㎡、収蔵数が約17.5万冊、席数は約200席。B1F平面図について。事務室と閉架書庫を置く。北側の自然採光の取れるところに事務室、南側の地中で温湿度が一定化しているところに閉架書庫を配置する。見計らいなどは会議室で行う予定。面積が約1,000㎡で、閉架書庫の収蔵数が約35万冊。B2F平面図について。駐車場は障がい者用と業務用である。それと配本ヤードを計画している。北側の車道からアクセスできるので、駐車場と団体貸出用の配本ヤード、また物流の拠点として作業スペースを配置。面積は約850㎡、収蔵数は団体貸出用に約3万冊。4「立面・断面計画」について説明する。4-1「立面計画」について。建物の高さを低く抑え、公園側からは1層の建物に見える計画として公園との一体性と景観に配慮している。東立面図の多摩中央公園側からは1層の建物に見える。外壁の一部をレンガ調仕上げとし、面しているレンガ坂との調和にも配慮する。屋根は勾配屋根となり軒は低く、日射負荷を低減する。4-2「断面計画」について。地下2階、地上2階。外観のイメージ図は一部建物が見えるよう木を消して表現しているが、公園とレンガ坂と調和した図書館のイメージ図である。基本設計の概要書の説明は以上。政策情報誌は6ページ目が図書館のパート。

ただいま説明した部分の概説とパースを掲載した。情報誌は、10月上旬に市内全戸配付され図書館のPRを図った。

図書館本館
整備担当課
長

補足させていただく。

基本設計が終わり実施設計を進めている。8月は基本設計の積み残しを整理し今後やることをまとめた。9月、10月とコンセントの位置やLANの位置、Wi-Fiの場所や図書館システムの置き場所などを整理。機械設備の空調の集中管理や個別管理、消火設備の調整。大雨対策の対応。書架のデザイン、内装などを検討。今後はそれらを図面に落とす作業や法令に基づく中央公園の事業認可変更手続、建築確認申請が必要。近隣のクロスガーデンへの説明。これは都の条例に基づく説明義務。そのような流れで実施設計を進める。前回の図書館協議会后に市民説明会を経てこの基本設計をまとめた。市民説明会では、設計と並行して各諸室の使い方や運営に関するワークショップを秋以降に実施するとしたが、実施設計のボリュームが想定以上に多く、時間的に間に合わないため市で整理し今年度中には図書館協議会に報告する。来年度にかけて市民と共に整理し図書館協議会にも報告し固めていく。

会長
会長

説明の内容について、委員からご質問ご意見等あれば頂きたい。

私から2つ意見を述べたい。まず、図書館は基本計画(案)策定後の市民説明会を受けて基本設計を策定した。実施設計での様々な検討は建設業者や図書館が議論をしていけば良いが、市民からの意見に対して何をフィードバックしようと考えていたか、市民との意見交換ではどういうものを求め、今後は何を予定しているのかを積極的に発信してもらいたい。もう一点は、この新しい中央図書館を核として多摩市の図書館は何を実現したいのか、もう一度立ち戻って考えてもらいたい。例えば無線LANの話があったが、一般の社会人向けにどのようなサービスが展開できるのか。テレワークを含めた様々な社会活動としてのビジネス活動を支える拠点となるような場所を目指すのであれば、当然PCが必要となる。利用者持ち込みは前提とはならない。常世田先生がシアトルの図書館を紹介していたが、図書館のPCが100台以上ワンフロアに並んでいる写真があった。こういったことは基本設計の中には入っていない。多摩市の図書館は何を目指し、市民のどのような活動を支援するのか、図書館の関わり方をもっと表現してほしい。それに合わせて、図書館職員の働くスペースは十分なかも危惧される。例えば地域の資料を電子化し、発信するためのスペースはどこにも無いように見受けられる。また、目録の作成や装備などの作業スペースはどの図書館でも不可欠であるが、それが十分か。荷捌き所が地下2階にあるが事務室と離れていてスムーズに動かせるのか。図書館は何を目指すのかということと、そのために図書館職員は何をするのかはセットで考えるべき課題である。市民のための空間はとても充実し開放的で居心地が良いことは分かる。それを十全にサポートする図書館職員が適切に働ける作りになっていないのではないかという印象も持った。

- 図書館本館
整備担当課
長
- この図書館は「知の地域創造」を目指す多摩市立図書館の中核を担う施設である。職員の動きは綿密に整理した。この図では小さすぎて分からないが、カウンター裏も含めて作業スペースとし、どこでどの作業をするかなど、閉架書庫にも机・椅子を置き、ブックトラックという台車の置き場所も含めた基本設計である。具体的な話は実施設計の中で詳細を詰めていき修正したい。
- 会長
- 説明を伺って、安心した。他方、現在の仕事を新しい中央図書館で展開するのではなく、今後の多摩市立図書館を考えたときに、今のままの形で良いかということも検討すべきである。今、この場で答えを求めているわけではないが、そういう視点でもぜひ実施設計を考えてもらいたい。
- 図書館本館
整備担当課
長
- 参考にする。
- 副会長
- ステッププラザの問題。どのように活用し生かしていくのか。新しい図書館活動の中でこの階段の使い方、広場の使い方は大きな疑問があり、説明は受けたが納得していない。会長のお話にもあったが、多摩市の図書館がどのようなサービスをしていくのか。疑問に思うのはサテライトカウンターの提案。2階に2箇所ある。もう一つ「へなそうるのへや」に近いところ。1階には無い。つまり総合カウンターの他に分散配置のカウンターがあるという提案。中央図書館の開館時にある程度の増員はあると思っているが、地域館にも専門職の配置は必要であり、このサテライトカウンターに常駐で人が配置できるのかは危惧される。常世田先生の「浦安図書館にできること」という本の中にこれからの図書館のあり方として、職員がレファレンスにどう答えていくか、書架の間にも相談できる場所があり利用者がすぐ声を掛けて自分の望んでいる資料を探することができる体制を提案されている。肝心なのは人の配置、場所だけあって使われないことになるのではないか。このサテライトカウンターを実現するための職員体制をきちんと考えてほしい。
- 図書館本館
整備担当課
長
- このステッププラザという階段広場は図書館の中だけの機能には留まらず、公園と街をつなぐというコンセプトで作っている。こういうものを無くし書架にした方が良いとの副会長からの要望であると思っているが、このような場所が公園と街をつなぐために必要と考え進めている。サテライトカウンターの人の配置は、委員からも以前ご指摘をいただいた。人員の検討はしている。司書資格を持つ職員が今後段階的に退職を迎えていくため、今年度3人の司書資格を持つ職員の採用を進めている。今後もこの採用は継続していきたいが、全ての時間サテライトカウンターの人あては難しいと個人的には思っている。人の配置ができなくても資料の展示などで使いたい。
- 委員
- ICタグの関連機器を上手く使えば人員をカウンターに配置できるのではないか。これだけの図書館を作るのだから今の人数では厳しいが、ICタグを使

った自動貸出や、返却、予約などを上手く使えばある程度の人数確保はできるのではないかと。開館後は予想以上に来館者がある。武蔵野プレイスでは予想以上の来館者によりサテライトカウンターにまで人員を配置できなかった。サテライトカウンターが機能すればとても良いが、全体的な人員配置は来館者数により慎重に対応する必要がある。

それからWi-Fi。これも場所、フロアを限定するのか分からないが、想像以上にWi-Fiの利用が多くすぐ容量を超えてしまう。利用状況を想定して導入しないと繋がらなくなる。それと防犯カメラ。人が来れば来るほど色々なことが起こる。武蔵野プレイスでは最初の40数機から10機程度増設した。防犯カメラには見せ方が二つある。見せる方法と隠す方法。見せる方法は抑止効果。盗難や何かあった場合には相当威力を発揮する。死角を作らないよう多少お金がかかってしまうが、防犯に大事なのでしっかりやっていただきたい。それからパートナースペース。どの位の広さか。

図書館本館
整備担当課
長

面積では4～5㎡。

委員

どのくらいの方に何をしてもらうかによって使い勝手が違って来る。先ほどの会長の話で何をどこまでやるのか、誰に何をさせるのか。しっかり考えてスペースを作らないといけない。それから地下1階の事務室の隣にある会議室は、職員専用の会議室か。

図書館本館
整備担当課
長

そうである。

委員

職員専用の会議室は重要である。貸出機などはどのような配置予定なのか。集中か分散か。

図書館本館
整備担当課
長

初めは利用者が操作を分からないことを想定して集中配置する。ある程度時期が経ったあと分散配置に利点を感じる市民もいれば、その時に移動できるよう準備をしたい。

委員

それは良い。武蔵野プレイスの入口は地下とメインは南北。分散配置をしてしまうと混んでいる場所とそうでない場所ができてしまうので集中管理にしたが、開館後の状況にあわせて配置できるよう準備するのは良い案だと思う。

ステッププラザは面白いと思う。荒川区の図書館は作っているが、要はどのように使うかである。書架は本体工事、それとも別工事か。

図書館本館
整備担当課
長

建設工事の中ではやる。備品ではない。

会長

ここまで委員から経験に基づくさまざまなご意見、ご指摘があった。その他

-
- にも利用者の視点や自身の個人的なものでも良いので、他の委員からもご発言いただきたい。
- 委員 防災面に関して。地下1階に閉架書庫がある。最近の災害でも多く場所での被害報道がある。対策はされているか。
- 図書館本館整備担当課長 地下1階の閉架書庫は、実際は道路面の一つ上のフロアになる。地下2階が一番下だが中央公園通りの高さになる。ワンフロア高い位置に閉架書庫がある。閉架書庫自体の浸水は基本的には無いと思っている。地下2階の配本ヤードは、例えば中央公園通りが冠水した場合、駐車場に水が入る可能性がある。そのあたりは防災部門と一緒に検討している。
- 副会長 書庫が地中にあり、池側にはドライエリアがあり、壁が二重構造になっている。地下の温度は一定に保てるということだが湿気が一番心配である。機械管理をすることのことだが、中2階の閉架書庫周りに全部ドライエリアが無くても問題がないと判断しているのか。
- 図書館本館整備担当課長 問題ないと判断している。浸水に備えた区画を想定しているので中に湿気が入ることは無い。
- 委員 図書館運営を直営方式でやっていく要員の計画について。図書館協議会が意見を述べることは、色々な個別の要望を述べることは分かるが、要員計画を決定していくのは多摩市になるのではないか。
- 会長 委員のご指摘のとおりである。この図書館協議会は図書館長の下にある諮問機関であり、図書館長から多摩市の図書館について意見を求められたり、定例会の中で直接意見を述べる機会が与えられている。私たちはこのような危惧を覚えるとか、こういった課題を抱えているとか、このことを検討したらどうかといったことは発言できる。また、要員計画は図書館だけでなく多摩市全体の話になるのではないか。
- 委員 要員の配置、ローテーションも全体の運営の中で決まる話であり、気を付けなければいけない。そういうことで理解する。図書館要員のこのような点は危惧するという話をするのが限界であろう。
- 委員 防災や環境に配慮していることは良いこと。平面図を見て一つだけ名前が決まっているのが「へなそうるのへや」である。これは渡辺茂男さん渡辺鉄太さんに敬意を表してその部屋の名前になっているという理解で良いのか。また1年を通してその著書などを紹介するコーナーになっているが、その他の企画はどのように考えているのか。
- 図書館長 「へなそうるのへや」は、渡辺茂男さんの代表作が多摩市の桜ヶ丘を舞台として作られていることもあり、今本館にある「へなそうるのへや」はそのまま中央図書館に置きたいと思っている。これは常設で通年「へなそうるのへや」となり、企画展示は、渡辺鉄太さんを含め活躍されている作家の展示もしていきたいと思

っている。常設の部分と企画展というような形で考えている。講演会なども中央図書館で実施して、「へなそうるのへや」とそれ以外の文学作品も読書振興ということ兼ね企画展示、講演をしていきたいと思う。

会長 シンボリックな存在として上手に活用し、広がりを見せるような展開を考えていると理解した。

委員 そうであるならば「へなそうる」をもっと広めないといけない。今の小さい子は「へなそうる」と接点がどのくらいあるのか。

会長 それは良いことである。

委員 小さい子どもたちのため、目的の場所に分かりやすく行ける掲示があると良い。子どもたちの職業調べや職場体験のための学習機能があり、こういうことを知ってもらいたい、こういうことを教えたいというエリアもあると良い。ここはこういうコンセプトで本を集めたとか、将来のことを思ってこう作ったということを見せてもらえると良いのではないか。

会長 学校連携は、地域館も含め全市域的に展開している。今回中央図書館ではどう学校と連携して行けるのかを含めて実現出来たら良い。

今回の意見も含めて、新中央図書館をぜひより良い形で実現していただきたい。

会長 議題2、平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について。事務局から説明をお願いします。

図書館長 この事業評価の目的は、図書館法第7条の3の規定及び多摩市読書活動振興計画の取り組み15に事業計画の策定と評価があり、多摩市立図書館の運営の改善を図るため評価を実施することで今年度から始めた。評価対象は多摩市読書活動振興計画に載っている基本目標を達成するために、平成30年度多摩市立図書館事業計画に位置づけた取り組みが評価の対象となる。6月11日、28日の図書館協議会で協議、委員のご意見を会長にまとめていただいた形になっている。

図書館協議会の評価をいただき、改善の方向性を図書館内部で考えまとめたものを中心に説明する。

資料4-2 平成30年度多摩市立図書館事業評価について説明。

事業評価は協議の日程やまとめ方について見直し検討も必要であり、今後改善を図っていきたい。これまでは事業の評価はしてこなかった、評価をどのように次の計画に盛り込んでいくか、来年度に向け進めていきたい。図書館事業評価は図書館ホームページなどでも公開する予定である。

会長 この事業評価は確定したものと理解してよいか。

図書館長 そのとおり。確定した事業評価の報告である。図書館が改善の方向性を示したが、そのことについてご意見があれば協議いただきたい。

会長 私たちは図書館側にさまざまな情報提供を求め、集中的に議論し、評価の内容

もかなり深く追求し、評価をまとめてきた。こそれに基づいて図書館から改善の方向性という部分が付け加わった。結果、事業評価を確定することができ、これで良いと思う。一つ考えておきたいのは、今回の進め方に関してである。事業評価が1年目ということもあり、もう一回実施して手順の見直し等を図るのが良いと思うが、各委員の感想はいかがか。難しかったところ、改善した方が良いところなど、ご意見があればいただきたい。

委員 図書館長から改善の方向が次の計画につながるということを知り、P D C Aができていたので安心した。私自身図書館利用者としてこんな仕事もあるのだと非常に勉強になった。定量的な指標を使うなどを少し意識し評価を発展させると良いのではないか。

会長 定量的な数値目標も織り込みつつ、全体的な評価ができれば良いのではというご意見であった。委員からは、事業評価を進めていく中で、さまざまな意見を文書で頂戴し、感謝したい。他にご意見はあるか。

委員 市民の目線がどう反映されているか。今回は課長、係長が中心に評価を行ったということだったので、これを係長以下の職員はどう共有するのか。評価の結果を考えることで、次年度の評価に結び付けていくと思う。そのあたりはどう考えているか。

図書館長 多摩市読書活動振興計画には評価指標がある。この指標に対しての実績は示していないので確認したいと思う。来年度の評価に向け出していきたい。職員への共有は正直なところ難しい課題になっている。事業評価は今までなかったものであるが、全体の会議の中で話し合いをもち、各図書館でどう生かしていくかを話し合い進めていきたい。

会長 是非そのような話し合いができる場をもうけていただきたい。指標に関して、委員のご意見はそれを単独でやらなくとも、取組み目標に対する成果を出すときの指標として使えば良いのではないかと話と私は理解している。仕事を増やすことなく、今ある中で上手に組み合わせれば良いのではないか。

副会長 今回の評価のやり方は、教育委員会などで行っているA・B・Cという評価付けで行った。三つのランク分けたが、やはり境目にあるような場合とても決めにくい。実際は文書表記で図書館も自己評価を行い、図書館協議会もそう表現をした。この三段階評価にこだわらなくても良いのではないか。日野市の図書館を見学した際どうやっているのかを聞いた。日野市は早くからこの評価に取り組んでいる。試行錯誤し今はA・B・Cのランクは無いが、最初は三段階の評価でやっていたそうである。日野市は課題と改善策という表現でまとめられている。

会長 A・B・Cの部分は市の評価をそのまま踏襲したという理解でよいか。

図書館長 A・B・CやA・B・C・Dで評価している。

会長 多摩市で採用しているから、ここでも取り入れたという理解でよいか。

図書館長 違う方法を取り入れても構わない。

- 会長 三ランクによる評価の難しさがあるのであれば、このやり方で良いのかどうかをあらためて検討したほうがよい。委員が言われるように、文章で表現して評価する方法も考えられる。さまざまな方策を考えることがまず必要である。
- また、具体的な課題の設定、改善の方向性は明確なものとはそうではないものがあるように思われる。これは、2ページ目の図書館協議会の評価「本事業評価全般に言えることであるが、目標や取り組み内容を具体化したほうが、図書館も各事業に組みやすく、また自己評価、外部評価も実施しやすかったのではないか。」という委員から指摘を入れた理由でもある。改善にあたって、このことももう一度確認いただき、本事業評価は終了としたい。
- 最後に、報告事項「学びあい育ちあい推進審議会の報告について」、委員からご報告いただきたい。
- 委員 令和元年7月、8月、10月の定例会の報告させていただく。
- 報告事項1、学びあい育ちあい推進審議会の報告について資料4-3を説明。
- 学びあい育ちあい推進審議会の協議事項、「第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会委員の推薦について」、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会（都市社連協）第3ブロック研修会について（研修会の準備）」、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会の準備—その2」、「令和2年度公民館事業の方向性について」。報告事項、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回拡大役員会について」、「地域学校協働活動・教育連携支援事業の取組みについて」、「第五次多摩市総合計画第3期基本計画について」、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回拡大役員会・第1回理事会」、「令和元年度地域学校協働活動推進委員会について」、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について（研修会を終えての振り返り）」、「（仮称）旧北貝取小学校跡地施設管理運営方針（素案）」、「平成30年度多摩市の図書館について（多摩市立図書館事業報告書）」、「第4次多摩市生涯学習推進計画の策定について」について。
- 会長 このことについて何かご質問はあるか。（質問なし）
- 会長 事務局から何か追加があれば願います。
- 図書館長 図書館の9月、10月に実施した事業、11月以降に開催するイベント等について説明。
- 副会長 今いただいた情報の中のオンラインデータベース講座の外部講師は誰か。
- 図書館長 TKCローライブラリーと日経テレコンからの講師。
- 副会長 ビブリオバトルのワークショップは何をするのか。
- 図書館長 ビブリオバトルの参加者と観客、それ以外の興味がある方も含めて集まっていたら、数人のグループで本を勧め合うという形のものである。
- 副会長 発表者ではなく、本をもってそこで紹介できるということか。
- 図書館長 そのとおり。本を持参していなくても、永山図書館で本を借りて、そのまま参

加してもらうこともある。

副会長

先ほど「へなそうる」の話が出たが、第8回目の企画展示が10月31日までだった。「あの企画をもう一度」という第2回で紹介したものを基に新たに書き直したものである。この企画の資料はよくできていて職員の力が感じられる資料だと思った。カラー版の冊子にできたら全国に発信できる資料となる。「へなそうる」は今の小さい人たちに知られていないというお話があった。もっと紹介できるコンテンツがあれば多摩市の宝になると思っている。それと「多摩市を知るコーナー」というものがある。地域資料、多摩市の資料を紹介していくことが皆の力になるのではと思った。

会長

これで令和元年度多摩市図書館協議会第4回定例会を閉会する。